

浅沼稻次郎、左派の高野実あるいは共産党系評議会はこの三つの結合を組織の方針とし各指導者は自ら体现した。

戦後社会党は1947年片山内閣時、とくに共産党は同年第6回大会で労働組合と共に生協方針を詳しく展開したのは歴史的传统の継承であった。

高野総評と生協は、1954年日鋼室蘭闘争で固く結合して長期争議をささえ、日本生協連は1958年まで大会スローガンに、労働組合との提携を掲げたのも同様である。

だがイタリアなどと違い労組と生協は高度成長期いらい30余年まったくとぎれて、お互いが縁なき思想と運動であるとしてきたし現にそうである。そして三位一体はこの間に解体した。

また三者の関係は戦前戦後も強いタテ系列、つまり「偉大な党」—「主力部隊の労組」—「後方兵站部の生協」という従属的關係と価値観であった（イタリアは56年～62年にこの思想政治関係を転換した）。とくに生協・協同組合・協同思想は無視、軽視されたために、例えば専門家によるスウェーデンの紹介は社会党と労組のみで生協はほとんどでてこない。

(3)1980年国際協同組合同盟大会の四つのレイドロウ提起は歴史上画期的であった。それは協同組合史上はもとより、「飢えた第三世界への連帯」のよびかけなどは、20世紀の第二、第三インター

と二つの国際労働組合インターの水準をこえるものであった。紙数がないので協同組合地域社会にしばっていおう。

世界的な大都市化の集中と「東京砂漠」といわれるいちじるしい人間疎外の中で、この提起は現状を根本から変革する永続的社會革命・社会運動の第一義的価値をもつ。自然との共生、人間と人間のあらゆる差別を許さない共生の協同社会形成にむけて三者はエコロジー、フェミニズム運動などと共に日本の土壌に根ざした地域フォーラム等を通じて取組むべき時代に入っている。

この数年来、「近代国家の終焉」「薄れる国家」がEC等でいわれだし、日本でも明治廃藩置県いらいの中央集権制に対して、「廃県置藩」一都道府県制の廃止と3245市町村を300くらいにして権限を大幅におろす地域分権論が行革審を舞台に激突し、下からの主張もではじめた。

「共にメシを食う」相互扶助・連帯の協同地域社会をめざす運動は、下からの「分権革命」と結合してこそ大きなエネルギーを発揮する。

社会主義と労働組合の底深い危機、生協・協同組合の思想危機のいま、新しい成長の芽生えは始まっている。

人類が長い間いだいたユートピアを「明日の現実」にする歴史的チャンスにあたって、三位一体の復権と新たな展開にふみだす時である。

各研究会の今後の日程

＝第8回「福祉・医療と協同」研究会＝

・報告：田中羊子、矢吹美樹（センター事業団）
「事業団の福祉ヘルパーの新たな展開と高齢者福祉生協への展望」

・コメンター：木下安子

この間の事業団1.2.3.運動は例年になく新たな飛躍をとげています。その中で福祉部門は、高齢者への介護の取組みが東京圏でも始まり、将来の高齢者生協づくりへの確実なステップとなっています。これら実践をまじえ報告します。

・4月10日（金） 18：30

・協同総合研究所（JR高田馬場駅、新宿より改札を出て30m）

＝第3回「協同組合地域産業基盤」研究会＝

・宮本憲一他編『地域経済学』（有斐閣）を精読しながら、各地で取組まれる内発的発展の実践と理論を究明。今後数回継続の予定。

・書評報告：安藤政武、広瀬

・4月16日（木） 18：30

・協同総合研究所（高田馬場）

＝第8回「労働組合運動と協同」研究会＝

- ・報告：石田嘉幸（元国鉄職員）
「国労闘争と労働者協同組合運動への接近」
- ・4月23日（木） 18：30
- ・明治大学神田駿河台校舎、研究棟4階会議室
（JR御茶ノ水駅下車、徒歩5分）
- ・会場が研究所より上記に変更しました。
- ＝第4回「労働者協同組合法制」研究会＝
- ・報告：安藤政武（協同組合研究家）
「労働者協同組合の法制確立をめぐり討議と運動の展望（続）」
日本における労働者協同組合法制の確立をめざ

す実践的な立場からの理論と運動論を前回に引き続いて報告。

- ・4月25日（土） 13：00
- ・協同総合研究所（高田馬場）
- ＝第10回「廃棄物問題」研究会（畔上塾）＝
- ・テキストの第9章「プランニングの方法」
- ・4月25日（土） 10：00
- ・ブランド研究所（銀座）
- ＝第10回「協同総合研究所常任理事会」＝
- ・4月18日（土） 10：00～14：00
- ・明治大学神田駿河台校舎、研究棟4階会議室（JR御茶ノ水駅下車、徒歩5分）

インフォメーション

タウ技研（東芝アンベックス分会）

の新工場開設のお知らせ

- ・8年にわたる東芝アンベックス闘争も勝利解決し、勝ち取った新工場が完成、操業しました。旧工場から2駅行った所で皆様の見学等をお待ちしているとのこと。放射能測定器（R-DAN）の開発等で知られ、今、中性洗剤を使わない洗濯機の開発をめざしています。今後の自主生産活動の一層の飛躍を期待しましょう。
- ・タウ技研工場、東芝アンベックス分会事務所
新住所：〒226 横浜市緑区佐江戸町181

（JR横浜線鴨居駅下車、町田駅寄りへ川沿いを徒歩15分）

新電話：045-935-0735（FAX兼用）

京都生協共同研究会主催、4・29シンポジウム

「21世紀を担う生活協同組合」

- ・日時：4月29日、10：00～17：00
- ・会場：コープイン京都（京都市中京区）
- ・報告：野村秀和氏、浜岡政好氏、井上英之氏、川口清史氏
- ・申込、問い合わせ先：京都生協調査資料室（TEL. 075-256-3335）

受贈図書文献

1992年2月～3月

単行本

- 後房雄編著『大転換—イタリア共産党から左翼民主党へ』（窓社、91年12月）
- 大阪府保険医協会編、上田浩治著『学齢期シンδροーム』（あけび書房、92年3月）
- 奈良好子、斎藤晴雄『子育ては金かけないで、愛かけて』（あけび書房、92年3月）

定期刊行物

- 『流通動向』（季刊）第1巻第8号（芽ばえ社、

92年2月）

- 『印刷出版労働者』通巻1024号（全国印刷出版産業労働組合総連合会、92年2月）
- 『母親しんぶん』（月刊）第405、406号（日本母親大会連絡会、92年2月、3月）
- 『障害者のゆたかな未来をめざして』（月刊）第117号（愛知県・ゆたか福祉会、92年1月）

文献・資料

- 法政大学大原社会問題研究所「向坂逸郎文庫目録Ⅰ—日本語図書分類順」（92年3月）